

第5回 解答用紙

[月 日]

マーク別

良い例	悪い例
<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>

組 番	
氏名	

第1問	1 - 8	/50
第2問	9 - 15	/50
合計		/100

検印

解答番号	解 答 欄										配点
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	
1	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	5
2	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	5
3	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	5
4	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	6
5	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	7
6	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	7
7	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	7
8	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	8
9	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	4
10	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	4
11	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	8
12	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	8
13	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	8
14	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	8
15	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	10

第1問

次の文章は『平治物語』の一節である。平治の乱において源義朝が平家に敗れた後、その子頼朝は美濃国の奥波賀に身を隠していた。これを読んで、後の問い(問1～6)に答えよ。(配点 50)

右兵衛佐頼朝は、奥波賀に忍びて **a** おはしけるに、三河守頼盛、尾張国をたまはりて、弥平兵衛宗清を **b** 目代に下されけるほどに、奥波賀の宿へ着き、その夜、遊君を一人とどめたりけるに、かの女、長者のもとに兵衛佐殿おはしますよし言ひければ、**(1)** 我、平家の侍なり、あれは源氏、敵なり、**A** **い**かでもかもらすべき」なれば、宗清、長者の宿所に押し寄せ、「右兵衛佐殿これに忍びておはする、出だすべし」と言ひければ、大炊、夜叉御前の御前に **c** 参り、佐殿にこのよし申せば、「存じて候ふ」とて、自害せむとし給ふところに、平家の侍ども押し入りて、佐殿を見 **d** 奉り、すきもなく兵あまた走り寄り、刀を奪ひ取り、佐殿を生け捕り奉る。宗清やがて出でければ、妹の姫君、「我も義朝の子なり。女子なりとも、助けおきては悪しかるべし。具して行きて、右兵衛佐殿と一所にてうしなふべし」と **e** のたまひて、伏しまろび泣きければ、**B** 兵どもあはれにぞおぼえける。さて、都へのほり、平家の見参に入れければ、**(注6)** 神妙なりとて、やがて宗清に預けおかれけり。

清盛、右兵衛佐殿へ使者をもつて、「御辺の鬚切いづくに候ふぞ」とのたまへば、今は隠しても何かせむと思はれければ、「奥波賀の長者のもとにぞ候ふらむ」と申されければ、難波六郎恒家を使者にて、大炊がもとへ、「右兵衛佐頼朝の鬚切あるなる、参らせよ」とのたまへば、**C** 長者このよし聞き、「源氏重代の太刀を平家のかたへ取らるることこそ **ア** 惜しけれ。佐殿こそ切られ給ふとも、義朝の公達多くおはしませば、平家の運末になりなむ時、源氏世に出で給はぬことは **(イ)** よもあらじ。その時こそ太刀を参らせたならば、いかに喜びなむ。いかにせむ」と思ひけるが、「泉水とて鬚切にも劣らぬ太刀あり。**(2)** これを参らせたらむほどに、兵衛佐殿のもとへ遣はして尋ねられむ時、**(3)** わらはと同じ心にて、鬚切と仰せられば **(ウ)** しかるべし。もしあらぬよし申され給はば、平家よりとがめのあらむ時、女にて知らざるよし陳じ申さむに、別の子細はあらじ」とて、鬚切は、柄・鞆まろかりけるを、抜きかへて泉水を参らせたり。案に違はず、佐殿のもとへ遣はして、「鬚切か、あらぬ太刀か、正直に申さるべし」との

たまへば、兵衛佐殿、「あらぬ太刀よ」と思はれけれども、「大炊も子細ありて鬚切をばとどめたるらむ」と思ひやりて、「鬚切に候ふ」と申されければ、清盛大きに喜びて、深く納めおかれり。

(注) 1 目代——国司の代理として派遣される役人。 2 遊君——遊女。 3 長者——宿駅の女主人。 4 大炊——奥波賀の宿の長者の名。 5 夜叉御前——頼朝の妹。 6 鬚切——源氏に代々伝わる名刀。

問1 傍線部(ア)～(ウ)の解釈として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は **1**。

(ア) 口惜しけれ ① 意外だ ② むだだ ③ 残念だ ④ 心配だ ⑤ 不快だ		(イ) よも ① まさか ② なるほど ③ かえって ④ たまに ⑤ きつと		(ウ) しかるべし ① それでよい ② 腹立たしい ③ ありがたい ④ 気がかりだ ⑤ しかたがない	
--	--	---	--	---	--

問2 波線部 a～e の敬語のうち、頼朝に対する敬意を表しているものはどれとどれか。その組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **4**。

- ① a 「おはし」と c 「参り」
- ② a 「おはし」と d 「奉り」
- ③ b 「れ」と d 「奉り」
- ④ c 「参り」と e 「のたまひ」
- ⑤ d 「奉り」と e 「のたまひ」

問3 波線部(1)「我」、(2)「これ」、(3)「わらは」は、それぞれだれ(何)を指すか。その組合せとして最も適当なものを、次の①

～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **5**。

① (1) 「我」——宗清	(2) 「これ」——泉水	(3) 「わらは」——大炊
② (1) 「我」——頼盛	(2) 「これ」——泉水	(3) 「わらは」——大炊
③ (1) 「我」——宗清	(2) 「これ」——泉水	(3) 「わらは」——頼朝
④ (1) 「我」——頼盛	(2) 「これ」——鬚切	(3) 「わらは」——頼朝
⑤ (1) 「我」——宗清	(2) 「これ」——鬚切	(3) 「わらは」——大炊

問4 傍線部 A 「いかでかもらすべき」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **6**。

- ① なんとか救い出してやりたい
- ② どうしても討ち取りたい
- ③ 逃げるつもりなどない
- ④ 取り逃がすわけにいかない
- ⑤ 密告するべきではない

問5 傍線部 B 「兵どもあはれにぞおぼえける」とあるが、兵たちは夜叉御前のどのような思いに接して心を打たれたのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **7**。

- ① 女の身でありながら、平家の武士たちと勇敢に戦おうとする思い。
- ② 頼朝との別れを嘆いて、その場で自ら命を絶とうとする思い。
- ③ 死を覚悟の上で、どこまでも頼朝と行動を共にしたいという思い。
- ④ 頼朝を生け捕りにして連れて行かないでほしいという思い。
- ⑤ 頼朝の身代わりとして自分を連れて行ってほしいという思い。